

草は萌え出で

(昭和五十三年第七十回記念祭歌)

朝倉仁樹君 作歌
田坂幸平君 作曲

一

草は萌え出で郭公は鳴き
憧れ睦ぶ宿舎に
疾風怒涛の渦の中
明り求めて放浪いぬ
巷の塵をふり払い
悠々迪を歩まん

二

蜚声放歌乱舞する
姿雄々しき吾なれど
原始林の可憐な白花に
心ふるわす春もあり
清き乙女子去りて行く
恋に涙す秋もあり

三

気高き野心の男の児等が
士幌に山小屋をうち建てぬ
十勝の山と平原に抱かれ
果てなく魂翔けるなり
厳しき北の大地より
新たな夢に飛びたたん

四

読み飲みの語り夜は明け
熱き情に年は経る
ああ青春の祭日も
はや七十を数うなり
寮生よ再び楡影に
三十年後に集わなん